

指定管理者による管理運営の実施状況報告

- 1 施設名： 福岡県平尾台自然観察センター
- 2 指定管理者名： ハートランド平尾台株式会社
- 3 指定期間： 平成24年4月1日～平成29年3月31日
- 4 施設設置目的： すぐれた自然の風景地である北九州国定公園平尾台地区における県民と自然のふれあいを促進し、もって自然環境及び自然保護に対する県民の理解を深めることを目的とする。
- 5 管理運営についての点検結果（平成28年4月1日～平成29年3月31日）
 - (1)点検方法： 事業報告書、現地確認・ヒアリングにより、指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。
 - (2)点検結果： 別添のとおり。

①管理運営状況総括表

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
①公共性（公益性）の確保	<ul style="list-style-type: none"> 「自然と人に優しい」をコンセプトに、現実の自然を教材として、人が自然への関わり方を学ぶ場とする。 違法行為に対しては厳しい監視を行い、自然保護に対する理解と共感の確保に努める。 ボランティアの育成と活動の推進を図る。 県、北九州市等の行政機関や地域との密接な連携を図る。 公共施設としてのサービスの質を確保するため、定期的な職員研修や柔軟な職員配置を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然保護の重要性を普及、啓発するための各種イベントが行われている。 自然観察会：野草観察、カルスト探検、生き物観察等…33回 講習会：アートフラワー講座、制作体験…14回 北九州市内小学生の環境体験学習の受け入れを実施。 違法行為への監視活動が十分に行われている。（年間363日、延べ726回） * オフロード車の乗入違反、植物採取、不法投棄、たき火等に対する是正指導 研修会等を通じてボランティアを育成し、センターが主催する自然観察会などの体験学習に活用する。（自然観察会指導研修 34回） 生物多様性を維持するための竹伐り、草刈りを行うとともに、案内板や散策コースの整備等を行っている。（活動実績67回） 県、北九州市との「定例連絡会」により運営に係る課題を共有する他、関係市町村（北九州市・行橋市・苅田町）、地元関係者と地域の保全に関する連携を図るため「地域連絡協議会」により協議を行っている。また、自然環境関連団体との連携も図られている。（いのちのたび博物館、秋吉台エコミュージアム、日本洞窟学会等） 平尾台で開催される「平尾台クロスカントリー」「野焼き」に実行委員会のメンバーとして参加し、自然保護の観点から助言を行う。 外部講師を招いた職員研修やボランティア研修の受講を通じ、自然保護の担い手としての資質向上に努めている他、繁忙期には必要に応じ「平尾台自然の郷」から職員の融通を行っている。
②施設利用及びサービス向上	<ul style="list-style-type: none"> 一層の利用促進を図るため、常設展の他に特別展示を開催する他各種広報媒体によるPR対策を充実する。 利用者の利便性向上のため、開館日は柔軟に対応する。 センターの中庭等に平尾台の代表的な野草園を整備する。 サービス向上の一環として物品販売を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別展示として「写真展」「アートフラワー作品展」を計6回開催。 北九州市、苅田町の各行政広報誌、新聞各社、タウン誌等に情報の掲載を依頼するほか、WEBサイトにも掲載している。機関誌「石のひつじだより」を毎月1回、近隣市町村役場、飲食店、病院等人の集まる場所へ配布している。 「平尾台自然の郷」と連携し、平尾台をPRするチラシを福岡市内を含む県北部地域に新聞折り込みにて配布した。 夏休み期間中は休まず開館し、利用者の利便性向上を図っている。 平尾台に生育する200種以上の野草を中庭やセンター外周に集め、高齢者や歩行困難な利用者もセンターにおいて野草が鑑賞できるよう配慮している。 自然保護をテーマとする物販エリア「ミニミュージアムショップ」を設け、サービス向上に努めている。 入館者数：41,858人（対前年度△2.0% 対平成17年度比△7.5%） 4月、9月における悪天候の日が多かったことが入館者数減の主要因と考えられる。 アンケートによる利用者の要望を受け、老朽化したテーブル及び椅子の更新、増設を行う。

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
③経営（収支）改善	<ul style="list-style-type: none"> 人材やノウハウ等、経営資源の有効活用を図る。 空調等の維持管理経費の節減や施設・設備の保守点検業務の見直しにより、経営改善に努める。物品販売による増収に努める。 人件費の抑制に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「平尾台自然の郷」との連携により、人材、ノウハウの共有等有効活用による経営の効率化が図られている。 閑散期のロビー空調停止、照明機器の節電による経費節減が図られており、また、有料イベントや物品販売による増収に努めている。 繁忙期には「平尾台自然の郷」から職員の融通を行い対応する他、イベントや自然保護活動はボランティアの協力を得て実施している。 委託料実績：26,435千円（対前年度±0千円、対H17比△2,363千円、△8.9%）
④職員確保方策及び健全な財政基盤	<ul style="list-style-type: none"> 平尾台の自然保護について見識を持つ人材を確保する。 安定した財政基盤を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然保護及び平尾台への造詣が深い者(4名)を引き続き配置している。 本社運営部長を運営コーディネーターに充て、必要な助言、指導を行わせるなど、人的資源の有効活用を図っている。 北九州市の他、大手企業、地場中堅企業が出資した第3セクターであり、借入金もなく、経営基盤は安定している。
⑤施設管理上の個別事項	<ul style="list-style-type: none"> 気象情報等を適切に提供し、災害発生時の安全対策等、危機管理に向けた体制を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ、大雨、大雪等の気象情報や、積雪による通行障害等の交通情報を警察、消防等に提供している他、非常時を想定した防災訓練を計画どおり実施している。 緊急時や災害時には携帯メールを活用し、迅速な連絡体制をとっている。

②点検結果

<input type="checkbox"/> A+ （提案内容を上回った）	<p>【総合コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然保護の重要性を普及、啓発するための「学習の場」としての機能は、従前どおり生かされている。 多客期における開館対応や物品ショップの設置、平尾台の植物をセンターで鑑賞できる野草園を整備するなど、サービス向上に向けた努力や高齢者や障がい者への配慮がなされている。 ボランティアについては育成研修会を開催するほか、自然観察会の運営や竹林の伐採等の環境保全作業を協働で実施するなど、育成と活動の推進がなされている。 第3セクターの性格上、法人としての大きな収益は望めない一方、安定した経営基盤が維持されている。 上半期の悪天候の影響はあったものの、入館者数は前年とほぼ同程度であった。今後は広報を強化することとし、北九州地区の駅を中心にポスター掲示の検討を進めている。
<input type="checkbox"/> A （提案内容をやや上回った）	
<input checked="" type="checkbox"/> B （概ね提案内容どおり）	
<input type="checkbox"/> C （提案内容をやや下回った）	
<input type="checkbox"/> D （提案内容を下回った）	